

川崎市国際交流協会会長賞

私の「好き」な えい農団地の未来

岡上小学校 5年生 岡本 悠希

私は、生まれた時から岡上に住んでいる。なのでどの景色も見なれていた。時々、学校の登下校で、「いつも同じ景色でつまらない。」と、思ったことがあった。しかし、たまにお出かけで都心に行ったりすると、ガヤガヤしていたり、自然が少ないことがいやで「やっぱり岡上の方がここより絶対いい。」と改めて思うのである。人それぞれだとは思いますが、私は静かで自然が多い所が好きで、それがあてはまる。『岡上』が好きなのだ。

さて、話は少し変わるが本題へいく。私は、岡上の中でも動物がいっぱいいて、草・木・花などの植物が多くあり、静かで落ち着けるえい農団地が好きだ。通学路でもなければ、よく行くわけでもない。でも、好きなのだ。

好きな理由は、保育園児だった時、さんぽのコースでえい農団地に来ることがあった。いろいろな植物があるから、先生から教えてもらった植物を観察できたり、その植物を、四つの季節で楽しめたからだ。それで、えい農団地のことがもっと知りたくなったし、他の植物にもふれたり、調べたりしたいと思った。

他にも理由があり、これは、岡上の人全体でみてもそうだが、優しいところだ。以前、全校遠足の時に、えい農団地を通った時のことだが、ご近所の人が見送るなどのことをしてくれた。全校遠足では、「こどもの国」に行った。行くとき、「行ってらっしゃい」と声をかけてくれた。やさしく声をかけてもらったので、私も笑顔で「いってきます」と言うことができた。「こどもの国」から学校へ帰る時も「おかえり」と言ってくれて、つかれが少し軽くなった気がした。この二つが、私がえい農団地のことが好きな、二つの大きな理由だ。

さて、この作文の本題の本題へと話を変える。えい農団地の未来のことについて考える。過去にもどるが、二年生の時、「町たんけん」というものがあった。色々なコースを通ったが、えい農団地も通った。「町たんけん」の時は、あまり思わなかったが、総合で農作業をしている時に、えい農団地のことが思いうかんだ。その時、「ふだん変わりのない風景だけれど、それを作るのに、大変な思いをしているんだな」と思った。私は、そんなえい農団地は、今と同じ風景のまがいいと思う。それがえい農団地の未来だと、願いたい。マンションやビルは、あまりたってほしくない。色々な植物が姿を消すのは悲しいし、大変な思いをして作った風景をかんたんにこわしてほしくないからだ。「ここにいて、楽しい」と思える場所をこわしてほしくないからだ。だから、今と同じ風景のままでいてほしいのだ。

私は、通学路でもなく、よく行くわけでもないけれど、えい農団地が好きだ。だから、今と同じまま、私の好きなままのえい農団地であってほしいのだ。

それとともに、岡上もこのままであってほしい。これが、私がこの作文を書きながら思ったことであり、結論なのだ。